

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
 武蔵野市中町1の13の1 3F
 電話 0422(51)3131
 FAX 0422(51)3133
 musasino@yomiuri.com
 都内版編集室
 電話03(3217)1465・1466
 江東支局 電話03(3631)6116
 立川支局 電話042(523)4477
 ホームページ
 www.yomiuri.co.jp/local/

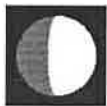
購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)9027
 【折込チラシ】 0120-03-4343
 【読売旅行】 03(5550)0666

8月18日(水曜日)
 旧 7月11日<大安>

あすの暦

通日 230
 月齢 9.5
 (正午)



日出 5.02
 日入 18.27
 月出 15.16
 月入

東京標準
 満潮 15.24
 干潮 7.14
 19.39
 (長潮)

大宰治の自伝的小説「東京八景」(1941年)には、三鷹町に移住するまでの間に作中の「私」が辿った道のりが具体的に明記されています。転居先として記されている地名を辿ると、「戸塚」「本所区東駒形」「五反田」「神田・同朋町」「神田・和泉町」「淀橋・柏木」「日本橋・八丁堀」「芝区・白金三光町」「杉並区・天沼」「荻窪駅の近く」「阿佐ヶ谷」「世田

文人の武蔵野

「東京市外」の東京八景

太宰治 ④



大日本帝国陸地測量部が1937年に測量した地図。左は三鷹周辺、右は荻窪周辺

谷区・経堂」の病院を経て、「千葉鼻船橋町」で転地療養。「板橋区」の病院を経てふたたび「杉並区・天沼」。見合結婚をして「甲府市のまちはずれ」。以上、「院長の指図」

による船橋への転地と甲府での新婚生活をのぞくと、すべて「東京市」内の移動です。「私」にとっての東京生活とは「東京市」内のことでした。十年間の私の東京生活を振り返るために「東京市の大地図」をひろげる場面があります。試みに太宰が目にした可能性がある「大東京市地図」(小林又七編、1936年)を確認しても、市外の三鷹の存在感は薄く、市内のように住宅区域や番地は記されていません。作中では「戸塚の梅雨。本郷の黄昏。神田の祭礼。柏木の初雪。八丁堀の花火。芝の満月。天沼の蝸。銀座の稲妻。板橋脳病院のコスモス。荻窪の朝霧。武蔵野の夕陽」と「東京八景」の候補が挙げられますが、東京市外としての「武蔵野の夕陽」だけが選ばれ、

それ以外の場所は「私」によって斥けられます。武蔵野町(吉祥寺・西窪・関前・境の四箇村と井口新田飛地をあわせた区域)ではなく、三鷹に限るのでもなく、虚実相半はするイメージとしての武蔵野が太宰の文学によって創作されたのです。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「太宰治の年譜」

生誕100年を経て発見された新資料を活用して刊行された「年譜」が同書です。小説家以前の日本共産党との関係史に詳しく、「人間太宰治」を読みこむことができる作品でもあります。また、書き残すことのなかった「武蔵野」との関わりについても知ることができます。



(山内祥史著、大修館書店)